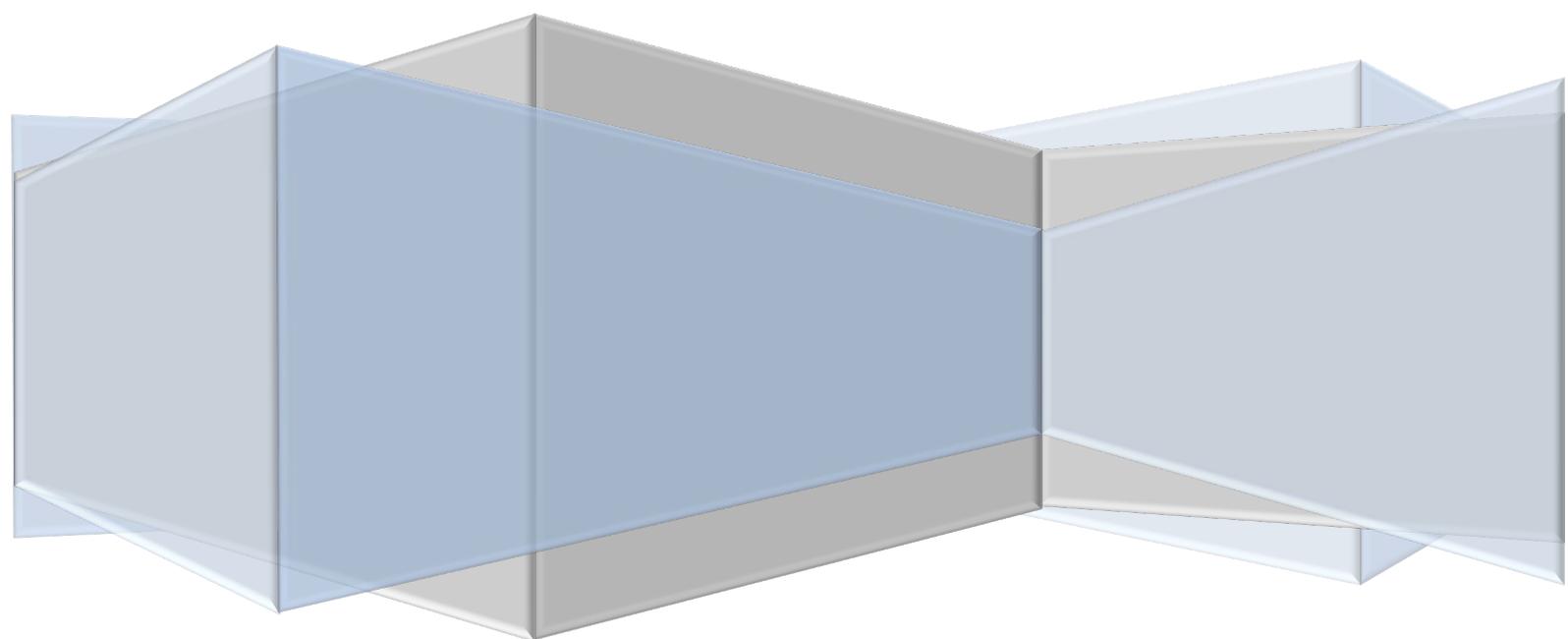


富山大学医療人教育室 2022 年度報告書



医療人教育室報告書 2022年度

目次

室長ご挨拶

I 医療人教育室について

1. 教室概要
2. 室員紹介
3. 富山大学杉谷キャンパス医療人教育室の設置に関する内規

II 各分野からの報告

医学科教務委員長 森永 芳智
薬学部教務委員長 久米 利明
看護学科教務委員長 安田 智美

III 2022年度活動報告

1. 医療人教育
2. 医療人教育室運営管理
 1. 医療人教育室運営会議
 2. 広報活動

IV 2023年度活動計画案

室長ご挨拶

富山大学杉谷キャンパスは、前身の「富山医科薬科大学」創立の理念「里仁為美」という「人に対する慈しむ心の教育」の伝統を、医学部・薬学部の強い連携により受け継いでいます。すなわち、「よき医療人を育成する」という両学部の共通理念から、医学・薬学・看護学を横断的に教育できる組織として医療人教育室が開設され、医学薬学教育部長が室長を兼任しています。実質的には、副室長の高村昭輝教授（医学科・医学薬学教育学）に陣頭指揮をとっていただいております。高村教授の多大なご尽力により医療人教育室の円滑な運営がなされています。また、事務の坂下 祥さんにも大変お世話になっています。

医療人教育室では、保健医療分野の人材育成を目的に以下の五本の柱を掲げています。

- ①入学から卒業までの一貫した評価と支援
- ②医学・薬学・看護学共通の教育事業
(共通授業や介護体験実習などを通じた多職種連携の推進)
- ③医療人教育のための研修会の開催
- ④医療・福祉に係わる教育資源開発・維持・充実
- ⑤国際交流に関連した人材育成

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、大部分の授業は対面で行うことができました。医療人教育室では、1年次生向けに「医療学入門」を担当し、医学部（医学科、看護学科）と薬学部（薬学科、創薬科学科）の新入生に対して、医療人に求められるプロフェッショナリズムや多職種連携の重要性について教育しています。

今年度は、新入生医療学研修を、本当に久しぶりに、立山（室堂）にて行うことを企画していたのですが、研修直前になって、全くの想定外なことに、立山有料道路が落石により通行止めとなりました。このため、医看薬の伝統ある「標高 2,450メートルでの研修」は叶わず、行先は高岡・射水方面に変更となりました。非常に残念でしたが、この研修で学生間での生き生きとした交流が行われ、少しホッとしました。ご協力いただいたすべての皆様に御礼を申し上げます。

今後も、新入生から実際に臨床や研究を実践するようになる高学年に至るまで継続的な医療人教育を行い、地域のみならず広く世界で活躍する優秀な人材の育成に努めていければと思います。引き続き皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

室長 酒井 秀紀

I 医療人教育室について

1. 教室概要

医療人教育室は、学部教育、医療学教育、医療人教育、国際交流連携などの学務業務を全般に補完し、保健医療分野の人材育成を目的に以下の業務を行っております。

1. 学生の入学から卒業までの教育の一貫的な評価と支援に関する業務
2. 医学・薬学・看護学の共通教育に関連する業務
3. 医療人の教育・研修機会の提供に関する業務
4. 医療・福祉に係わる教育資源の開発、維持、充実にに関する業務
5. 国際交流に関連した人材育成に関する業務
6. その他医療人教育に関する業務

2. 室員紹介

室長	酒井 秀紀	薬学部長、薬物生理学教授(薬学部)
副室長	高村 昭輝	医学教育学教授(医学科)
室員	松谷 裕二	薬学部副学部長、薬品製造学教授(薬学部)
	森永 芳智	医学科教務委員長、微生物学教授(医学科)
	久米 利明	薬学部教務委員長、応用薬理学教授(薬学部)
	安田 智美	看護学科教務委員長、成人看護学2教授(看護学科)
	石木 学	保健管理センター(杉谷分室)准教授

オブザーバー

高橋 知裕	医薬系学務課長
本多 了	医薬系総務課係長
松田 育枝	医薬系学務課

事務補佐員

坂下 祥

3. 富山大学杉谷キャンパス医療人教育室に関する内規

(目的)

第1条 富山大学杉谷キャンパスに、医学、薬学及び看護学の連携の基に医療分野の人材育成を体系的に進めるため、医療人教育の組織化を図ることを目的として、医療人教育室を置く。

(組織)

第2条 医療人教育室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 室長
 - (2) 副室長
 - (3) 医学部教授会及び薬学部教授会（以下、「各教授会」）から選出された教員 若干人
 - (4) その他室長が必要と認めた者
- 2 室長は、医学部長又は薬学部長をもって充てる。
- 3 副室長は、第1項第3号及び第4号の室員のうち、室長が指名する者をもって充てる。

(室員の任期)

第3条 第2条第1項の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の室員の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 医療人教育室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の入学から卒業までの教育の一貫的な評価及び支援に関する業務
- (2) 医学、薬学及び看護学の共通教育の連携に関する業務
- (3) 医療人の教育及び研修機会の提供に関する業務
- (4) 医療及び福祉に係る教育資源の開発、維持及び充実にに関する業務
- (5) 国際交流に関連した人材育成に関する業務
- (6) その他医療人教育に関する業務

(称号の付与)

第5条 室員に、次の各号に掲げる称号を付与することができる。

- (1) 医療人教育室教育教授
- (2) 医療人教育室教育准教授
- (3) 医療人教育室教育講師

(称号の付与手続)

第6条 称号の付与は、各教授会の意見を聴いて室長が行う。

(称号付与基準)

第7条 各称号付与の基準は、次に掲げる者で医療人教育に優れた能力を有するものとする。

- (1) 医療人教育室教育教授 10年以上の医療人教育の経験を有する者又は特に優れた医療人教育の経験を有する者
- (2) 医療人教育室教育准教授 6年以上の医療人教育の経験を有する者
- (3) 医療人教育室教育講師 4年以上の医療人教育の経験を有する者

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、医療人教育室に関し必要な事項は、各教授会の意見を聴いて室長が別に定める。

附 記

この内規は、平成18年10月18日から実施する。

附 記

この内規は、平成19年4月1日から実施する。

附 記

この内規は、平成23年6月15日から実施する。

附 記

この内規は、平成25年6月19日から実施する。

附 記

この内規は、平成25年9月25日から実施する。

附 記

この内規は、平成26年3月19日から実施する。

附 記

1 この内規は、平成28年1月1日から実施する。

2 この内規実施後、最初に選出される室員の任期は、第3条の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。

附 記

1 この内規は、令和元年11月27日から施行し、令和元年10月1日から適用する。

2 この内規の施行日の前日において改正前の第2条第1項第3号の室員であった者は、この内規により医学部教授会又は薬学部教授会から選出されたものとみなす。ただし、任期については、第3条の規定にかかわらず、令和2年3月31日までとする。

II 各分野からの報告

学生も大学も進化できた「医療学入門」

医学科教務委員長 森永芳智

医学科・看護学科・薬学科・創薬科学科の学生さん合同で行われる「医療学入門」は、入学当初から医療人としての第一歩を踏み出したことを自覚するうえで極めて重要な位置づけとなっているとともに、養成職種を超えたシームレスな連携体制の意義を理解する機会ともなっています。

今年度も新型コロナウイルスの流行による影響に配慮しながらも、高村昭輝教授やタスクチームの先生方の入念な計画と連携のもとに、「医療学入門」を無事に終えることができました。入学したての学生も、戸惑いながらもオンラインと対面とを両立しながら、医療人の根幹形成に必要な責任感や心持ちを学ぶ機会となりました。医療系の学部に進学しながらも、early exposure の機会を奪ってきた感染症の脅威ですが、どうすべきか私たちが学んできた部分があり、学生もそれを受け入れる準備ができていたことで達成できました。多感なこの時期のプロフェッショナルリズムの養成が、卒後何十年にもわたるそれぞれの専門の道の視点に活用されることは間違いありません。

今年は、過去 2 年間実施できなかった立山研修を実施できました。あいにく落石のための通行止めという事情で現地には行くことはできませんでしたが、事前の生活行動様式の注意を学生がしっかりと守ってくれたおかげで、2 度の抗原検査で誰一人として陽性となることもなく当日を迎えることができました。バスを使って同級生と過ごす時間は、近年はなかった貴重なもので、学生間のつながりをうむよい機会になったのではないかと思います。また、コロナの第 7 波の大流行の中で行われた介護体験実習にも、あらかじめの体調管理を行ったことで、こちらも検査陽性者を一人も出すことがありませんでした。この実習では感染症を移しやすい世代が、感染症をもらいやすい世代と接触するわけですが、その後も全く感染が広がらなかったことは、学生自身の責任感とその実践を明確に証明できた全国にも誇れる実績であり、ウィズコロナの時期における画期的な事例となりました。その他、チーム医療への関わり方や、患者家族の方からのお話など、例年踏襲されている教育も順調に行うことができ、これからの専門教育を真摯に学ぶ「富山大学卒業の医療人に共通に流れるマインド」を形成する科目であることは言うまでもありません。

いま、大きく教育は変わってきています。進化論では、変化できた生物のみが困難を切り抜けてきたとされています。今回、感染症の中でも実習ができたように、富山大学は時代に応じて変化してできる大学、つまり進化する大学です。ただ、入学してくてくれた学生さんの協力もあってのことで成り立ちました。これは、学生さんも対応力を身につけ進化してくれたと言っていいでしょう。今後も良い学修成果につなげられるよう、医学科としても引き続き協力してまいります。

医学部との合同授業としての「医療学入門」の重要性

薬学部教務委員長 久米利明

本学の薬学教育において「医療学入門」は、薬剤師としての倫理観、職業観を醸成し、患者や医療関係者等との信頼関係を築くための初期教育として高い評価を受けております。特に、救急救命士、介護施設勤務者、看護師、NPO「医療と人権」や富山県難病相談支援センター、薬害患者家族などによる多方面からの充実した講義は、薬害、医療過誤、医療事故の対応やその後の予防策・解決策に関する重要教育であると考えられます。それに加えて、医学部学生と合同の少人数グループ討議、高齢者医療施設の訪問や介護体験は、実践的かつ総合的なコミュニケーション能力の涵養に重要な位置づけであり、このような取り組みは他ではほとんど類を見ない、本学独自の薬学教育になっています。

本年度、コロナ禍により中断していた「医療学入門」の恒例となっている立山研修の復活に向けて、医療人教育室の先生方ならびにタスクチームの方々のご尽力により、ようやく実施ができる見込みになりました。富山で薬学を学ぶ学生において立山を訪問するのは、薬学部のスローガン「崇き連峰 薬師への挑戦」を実践していく上でも非常に重要だと考えております。実施直前には抗原検査キットを用いた検査を行うことで、およそ 300 名の参加予定学生がすべて陰性であることを確認いたしました。いよいよ出発という直前の 5 月 2 日になって、室堂につながる立山有料道路のスノーシェッドの鋼製の屋根に落石による穴が見つかり、通行止めとなってしまい、この結果あえなく立山研修は中止となってしまいました。しかし、何とか野外研修を実施したいとの関係者の思いを結実させるべく、富山県内の瑞泉寺と海王丸パークを訪問して班別行動を行い、コミュニケーション能力の醸成を行う貴重な機会として、5 月 14 日に野外研修が実施されました。当初、好天に恵まれず瑞泉寺では雨の中の訪問となりましたが、雨に濡れた瑞泉寺もまた一層重厚な雰囲気となり、大きな境内を存分に楽しむことができたと思います。その後、海王丸パークに訪れるころには天気も回復し、班ごとに屋外にて持参した昼食を摂り、思い思いの場所を訪れながらコミュニケーションを取っている様子が確認できました。立山には行けませんでした、学生のアンケートからも野外研修があつて良かったとの回答も多く見られ、初年次の行事としては貴重な体験になったと考えられます。

本年度から薬学部学生の定員も薬学科 70 名、創薬科学科 35 名と変更され、また新しいカリキュラムへの変更も行われております。その中で医療人教育室の一員に加わり、医療学入門に関わらせて頂きました。まだコロナ禍の難しい状況が続く中、医療人育成に対するメンバー 1 人 1 人の熱意と責任感に深く感じ入りました。立山研修の中止時に臨機応変な対応をしていただいたことも含め、これまで以上に困難な状況に対処する必要が生じると思いますが、この貴重な「医療学入門」という学部横断的教育の良質な内容を継続できるよう、微力ながらも取り組んでいきたいと思っております。

看護学教育における医療学入門

医学部看護学科教務委員長 安田智美

日本では超高齢社会が進展し、少子化により、保健医療介護の人材不足が危惧されています。また超高齢社会の進展は、医療福祉介護の現場で複雑で困難な健康問題に取り組む機会を増加させています。これは日本に限ったことではなく、世界中で保健医療介護人材の偏在が進展し、健康格差が拡大しています。このような背景を受けて世界保健機関は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる）の達成を目指しており、この取り組みは国連の持続可能な開発目標（SDGs）においてもゴール3（健康と福祉）として位置付けられています。

この世界的な動きの中で、専門職連携協働（Interprofessional Work : IPW）が重要視されています。多職種連携（IPW）とは、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに、お互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」を指し、看護学教育だけでなく医学教育、薬学教育においてもモデル・コア・カリキュラムに、基本的資質としての連携協働能力が位置づけられています。多職種連携を進めるには、自身と異なる専門職の専門性を理解し、お互いに尊重し合ってその専門性を発揮できるような多職種連携教育（IPE : interprofessional education）が必要になってきます。

医療学入門は、多職種協働教育（IPE）の一環として、医学、薬学、看護学を学ぶ学生が合同で医療を学び、考え、意見を述べ合うといった貴重な科目です。医療学入門で、心肺蘇生法や医療倫理、コミュニケーション、医療と社会を学ぶ中で医療者としてのプロフェッショナルリズムを育てるとともに、介護体験実習において要介護者や介護職スタッフとコミュニケーションをとり、要介護者の人権とQOLに配慮しながら生活支援や共同作業に参加して学んだことをグループで討論して共有化します。昨年度はCOVID-19の影響で、介護体験実習は中止となりましたが今年度は実習施設の協力もあり一部の学生でしたが実習を行うことができました。体験実習での学びを、実習できなかった学生も含めてグループワークで共有化できたことは今後の皆さんの力となっていくと考えます。

Ⅲ 2022 年度活動報告

1. 医療人教育

医療人教育室では、医学・薬学・看護学の1年生が合同で学ぶ「医療学入門」授業のカリキュラムプランニングを担当しています。医・薬・看護の各領域の実務家教員による講義とともに、新入生医療学研修や心肺蘇生法講習、保健福祉介護医療施設における介護体験実習など、よき医療人としての基礎となる知識・体験が身につくようなカリキュラムとなるよう配慮しております。

また、学生に対し授業についてのアンケートを実施し、次年度のカリキュラム検討を行っております。

2022 年度 医療学入門授業内容

ユニット	内容	講師
1	医療学概論	医学部長・薬学部長・医学科長・看護学科長
2	新入生医療学研修(立山研修)	新入生医療学研修タスクチーム
	心肺蘇生法講習	心肺蘇生講習タスクチーム
3	医療倫理とプロフェッショナリズム	宮島光志(応用倫理学教授)
	コーチング法	石木学(保健管理センター准教授)
	コミュニケーション	山口育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)
4	難病支援と難病患者の思い	富山県難病相談・支援センター相談支援員、患者様
	患者家族の思い	患者家族様
	薬害再発防止のために	花井十伍(NPO法人ネットワーク医療と人権理事)
	あったか地域の大家族	惣万佳代子(NPO法人デイサービスこのゆびとーまれ理事長)
	イタイイタイ病資料館見学	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となりました
5	介護体験実習オリエンテーション	高村昭輝(医学教育学教授)
	介護体験実習	
	介護体験実習事後グループワーク	

2. 医療人教育室運営管理

1. 医療人教育室運営会議

約2ヵ月に1度運営会議を開催し、以下の内容について討議を行いました。

2022年度 医療人教育室運営会議内容

4月	令和四年度医療人教育室室員について	12月	令和四年度早期介護体験実習について
	令和四年度新入生医療学研修タスクチーム構成員について		令和四年度医療学入門アンケート集計結果について
	令和四年度心肺蘇生講習タスクチーム構成員について		(令和四年度前期全科共通授業評価アンケート集計結果含む)
	令和四年度医療学入門について		令和五年度医療学入門について
	令和四年度医療人教育室副室長の選任について	1月	新入生医療学研修実施検討タスクチーム構成員について
	令和四年度新入生医療学研修について		新入生医療学研修について
	令和四年度医療学入門早期介護体験実習について		心肺蘇生法講習タスクチーム構成員について
6月	令和四年度医療人教育室室員について	1月	令和四年度医療人教育室運営費について
	令和四年度新入生医療学研修事後アンケート集計結果について		令和五年度医療学入門講義日程案について
	令和四年度心肺蘇生オンライン講習アンケート集計結果について		令和五年度イタイイタイ病資料館見学について
	令和四年度医療学入門早期介護体験実習について		医療人教育室2022年度報告書(原稿依頼)について
8月	令和四年度医療学入門成績評価について	3月	医療人教育室2022年度活動報告書について
	令和四年度医療学入門早期介護体験実習について		令和五年度イタイイタイ病資料館見学について
	令和四年度新入生医療学研修タスクチーム振り返りの検討事項について		

2. 広報活動

HPによる広報活動を行いました。

医療人教育室2022年度報告書を作成しました。

IV 2023 年度活動計画案

1. 医療人教育

医療学入門の教科担当

- ・カリキュラムプランニング
- ・成績評価
- ・授業アンケート
- ・新入生医療学研修タスク支援
- ・心肺蘇生実習タスク支援
- ・早期介護体験実習タスク支援

2. 医療人教育室運営管理

1) 医療人教育室運営会議開催

2) 広報活動

- ・ホームページによる広報活動
- ・医療人教育室報告書の作成

